

## 1 事業の成果

コロナ禍を経て2022年度より再開したワークキャンプに加え、今年度はフィリピンにおいてハッピー子どもキャンプ・スタディツアーの再開を果たすことができた。コロナ禍で一旦途切れた繋がりを再び立て直す動きや、団体や未来をより良くしたいという想いが基となる青年主体の活動が稼働し始め、団体設立当初のような「運動体」の動きが活発化した。オンラインで実施していた学校協働事業においても、目標としていた海外フィールドでの開催を果たすことができ、海外事業との両立が課題であった地域活動においても、スタッフ体制を工夫しながら継続することができた。

4年ぶりに開催された国際コンベンションでは4カ国の理事・スタッフがフィリピンで一同に集い、CFF国際コンベンションとしての子どもの養育方針や青年育成について話し合いがなされ、多国間連携と組織化が進んだ1年となった。

## 2 事業の実施に関する事項

### (1) 特定非営利活動に関わる事業

#### 【1】ワークキャンプ・スタディツアーを通じた青年育成事業

事業名	時期	内容・結果
海外ワークキャンプ（フィリピン・マレーシア）	8月～9月 2月～3月	コロナ禍後に再開したワークキャンプに加え、2023年夏には3年半ぶりにフィリピンハッピー子どもキャンプを、また2024年春には同国で4年ぶりにスタディツアーを再開することができた。コロナ禍前に比べ高校生の割合が増える等の参加者層の変化が見られ、社会的ニーズに合わせたプログラム内容の研鑽が求められている。
ボルネオ島インターン留学	8月～9月 2月～3月	CFFマレーシアを拠点に30日間の長期滞在型プログラムを2回実施。「自分、他者、環境、社会、未来」の5つの視点から自分の生き方を考える中で、インターン生には子どもの養育や環境に対する理解の深まりが見られた。昨年度試験的に開始した試みだったが、今年度は募集開始直後に定員に達することから、本プログラムに対するニーズの高さが伺えた。

#### 【2】海外の子ども支援等の国際協力事業

事業名	時期	内容・結果
児童養護施設運営支援（フィリピン・マレーシア）	通年	引き続き、海外ボランティアプログラムや、CFFサポーターからの寄附をもとにした協働プロジェクトを通して、フィリピン・マレーシアで親と一緒に暮らせない子どものための施設「子どもの家」の運営支援を行なった。

地域の子ども支援（マレーシア・ミャンマー）	通年	マレーシア：入所児童自身が地域に出向き、「環境をケアする講習会」を行った。地域の子どもの人材育成の一環として、高校生や大学生ボランティア・インターンを施設に受け入れた。 ミャンマー：貧困家庭の家補修、職業訓練のための費用として支援金を現地の関連 NGO 宛に送金した
CFF インターナショナル 立ち上げ支援	通年	現地フィリピンに事務所を設置し、職員を派遣。CFF インターナショナルの理事、ミッション、ビジョンやロゴが決定し、各国の子どもの養育等について議論がなされた。現地スタッフの雇用と資金調達、スタッフの働き方の体制づくりが次年度の課題である。

### 【3】学校協働および次世代教育の実践的探究事業

事業名	時期	内容・結果
エデュケーションラボ	通年	年賀寄付金の助成は終了したものの、教育関係者向けの研究会は継続実施した。「外国につながる子どもたち」「わたしたちのwell-being～デンマークの教育から」をテーマについて深めた。
学校との協働プログラム	通年	茨城県教育委員会での教員向けオンライン研修に加え、新たに大分大学教育学部附属中学校の総合的探究の時間で3日間の授業を担当した。また、目標としていた現地での開催については、マレーシアでのフィールドワークとして大阪大学博士課程プログラム、明星大学海外フィールドワーク、順天高校の海外研修を協働実施することができた。

### 【4】地域の共生社会づくりに関する事業

事業名	時期	内容・結果
そだちあいの子育てひろば	通年	世田谷まちづくりファンド助成を受け実施。ひろば開催日を週1回に縮小したものの、来所親子延べ数は2022年度を上回った。地域の協力者（個人・団体）との連携・協働関係が生まれると共に、利用者発案のプログラム開催など、子どもを真ん中に育ち合い支え合う居場所機能の可能性を見出すことができた。
小学生向け学習支援「まなカフェ」	通年	世田谷区からの助成に合わせ、新たに東急子ども応援プログラムからの助成を受けることができた。事業3年目となり、子どもとボランティアの定着とともに、継続的な関わりの中から子どもと青年の育ち合いの基盤ができあがってきた。